

<p>審議会等名 令和4年度第1回つくばみらい市市民協働推進委員会</p>
<p>●日 時：令和4年9月16日（金）午後2時00分～午後3時30分</p> <p>●場 所：つくばみらい市市民活動まちづくりセンター 会議室</p> <p>●出席委員：古舘千恵子委員長、小菅均副委員長、石村章子委員、大橋信久委員、藤林寿委員、松本譲二委員</p> <p>●欠席委員：小菅新一委員、石塚裕子委員、関慶広委員、菩提寺宗子委員</p> <p>●事務局：市長公室 菊地公室長 地域推進課 中島課長、関課長補佐、石神課長補佐、飯村主査、前田主事、小林主事</p> <p>●傍聴人：なし</p>
<p>●次第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和3年度市民協働事業について（報告） (2) 令和4年度市民協働事業について 4 その他 5 閉会
<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員長あいさつ（古舘委員長） 3 議事 <ul style="list-style-type: none"> ・委員長が議長となり、以下の議事進行を行った。 (1) 令和3年度市民協働事業について（報告） ・事務局より説明を行った。 <p style="text-align: center;">【質疑・意見等】</p> <p>●委員</p> <p>資料に記載されている市における団体との連携・協働事業の一覧ですが、市のホームページでは見つけることができませんでした。</p> <p>この資料のとおりに掲載する必要はないと思いますが、各課でどのような事業をしている、支援をしている、一緒に立ち上げようとしているといったPRをすることも大事ななと思いました。</p> <p>●委員</p> <p>私も、この市における団体との連携・協働事業の一覧について、市ホームページに掲載した方が良いのではないかと思います。</p> <p>また、これらの事業は、全て実施期間が終了していると思われることから、PDCA サイクルを回すためにも、どのような結果が伴ったのかといったことも記載した方がよいと思います。</p> <p>その理由は、これだけの事業を実施している中では、課題などが必ずあると思います。良いことも悪いことも洗い出して、次年度以降の事業につなげていかなければ、本市の市民協働が成長していかないのかなと思いますので、是非お願いします。</p>

●事務局

委員のおっしゃる通り、PDCA サイクルを回すなどしていかないと本市の市民協働も発展していかないと思います。今年度はこのような課題があり、来年度は課題を活かしてどうやって取り組んでいくかといったことを含めて把握していけるように、調査の方法を検討してまいりたいと思います。

●委員

市民協働事業として、それぞれどの程度、どのような団体と協働をしているのでしょうか。また、どのような経緯で各団体と行政と一緒に協働という目的に向かってスタートしたのでしょうか。

先程、協働事業をもっと増やしていきたいということでしたが、今後、協働事業を増やしていく時に、どのような形をとり、どのような団体と、どのような目的やテーマにおいて進めていこうと事務局で考えているのでしょうか。

●事務局

今後どのように市民協働事業を増やしていくかというご質問ですが、この調査で回答のあった事業以外にも、各課で実施している協働事業があるのではないかと事務局では思っております。

そのため、市の職員を対象とした研修を継続して実施し、どういったものが市民協働であるのかという認識をしっかりと根付かせた上で回答してもらいたいと思います。

また、研修を受けた結果、地域の課題に団体と一緒に取り組んでいくことによって、解決できるものがあるのではないかとすることを、市の職員が課題意識として持つことで、さらに協働を進めていけるようになればと思っております。

●委員長

委員がご自身で考えている内容で、良いことがあるのであれば、事務局にご相談し、事業を膨らませていただけたら良いのではないかと思います。

●事務局

どのような相手と協働を進めていくかということですが、一つは、協働の相手方となる団体が増えていく、また、そういった方々が育っていくといったことをサポートしていくことで、協働相手を増やしていくことが協働事業を増やしていくことにつながっていくのではないかと考えております。そのため、市民活動まちづくりセンターは、団体のサポートや育成といった部分についても、支援を行っています。

団体とどういった協働ができるかなどを考えてもらうために、我々としては市職員を対象とした研修を行っておりますが、市民協働事業は、様々な側面を持って事業を展開しているところです。団体の育成などについて、現在は、なかなか種が芽吹いていない状態かもしれませんが、少しずつ実施しているところでございます。

●委員

協働事業について、ヒアリングは行っていないのでしょうか。また、資料を拝見すると、協働事業の公募は行っていないようですので、そのあたりをお伺いしたいです。

●事務局

こちらの資料は、各課から報告としてあがってきたものを表にしたものでございます。職員の意識を高めるためにも、研修を行いながら、市民協働の意識醸成を進めていきたいと考えております。

●委員

様々な形による公募というものがあるのではないかと思います。

●事務局

市民協働については、大きな公共という言葉があります。可能であれば、大きな公共に対して大きな行政がそれを支えることができればいいのですが、行政だけでは支えきれていないため、市民のみなさんのお力を借りることが市民協働につながってまいります。

協働の形態というのは、市民のみなさんが、地域の課題解決を自ら行う際に、それについて行政側がサポートや側面的支援を行うことで、一緒になって行っていくという方法と、地域の課題解決に対して、行政側から地域課題を提示し、ボランティア団体やNPO法人、自治会等の団体が行政と一緒にパートナーとなって解決していくという二つの形態がございます。

しかしながら、パートナー募集のための、大きな地域の課題を、市としてはまだ提示させていただいておりません。大きな公共を支えていく地域課題を行政側から提示させていただいて、それをもとに公募による相手方を探していくという方法については、今後、市民協働の考え方からすると、大きなウェイトを占めてくるのではないかと感じております。

これらのことから、資料においては、公募による協働相手の募集形態というものを表示させていただいておりますが、令和3年度におきましては、このような公募事業からスタートした事業はないことから、空欄になっております。

(2) 令和4年度市民協働事業について

- ・事務局より説明を行った。

【質疑・意見等】

●委員

「いきいき市民塾」の参加者募集チラシですが、情報量が紙1枚にしては多すぎるため、読みづらいと感じます。例えば、大胆に要点だけ見てくださいというものにして、そのほかの情報は、QRコードにしたり、団体の情報を省略してしまうといったこともできると思います。詳しくは市役所に連絡してくださいといったような、もう少し、パッと目に留め、とりあえずここに電話すればいいと思ってもらえるようなやり方がいいのではないかと思います。

●事務局

確かに文字量が多く、情報を詰め込みすぎており、見づらく思われますので、今のご意見を参考にさせていただきまして、次年度以降検討してまいりたいと思います。

●委員

「いきいき市民塾」についてですが、声掛けをした母数はどの程度なのでしょうか。

●事務局

当事業については、こちらから直接声かけをしたのではなく、広く周知するための方法として、公共施設等へのチラシの設置や高齢クラブに所属している方にチラシを配っていただくことなどを行いました。

●委員

チラシを配るのもいいのですが、情報を受けた方がどれくらいいるのかを把握しているのでしょうか。5名が参加したということですが、100人に情報を渡して5人というのと、10人に情報を渡して5人というものでは反応の割合が違うと思います。チラシをたくさん配ったけれども5人しか参加しなかったという、周知の方法も考えなくてはいけないと思います。そのような意味で、どの程度の人に伝わって、参加してくれた方がどのくらいなのかということを知りたいです。

それを考えないと、ただ、チラシをインターネットで流せばいいということになってしまいます。目的は事業のことを聞いてもらいたいのではなく、事業に参加してもらいたいということだと思いますので、今の方法は思ったより効果がないと判断する材料が欲しいと思うのですが、今は、そこまで把握していないということでしょうか。

●事務局

各施設に設置した枚数は事務局で把握しております。

●委員

例えば、1000枚配って手元に残っているのは700枚だから、300枚配ったとかそういったことを把握すべきだと思います。

このような、根をはっていかねばいけない難しい事業というのは、そのようにして押さえていけないといけないのではないのでしょうか。また、周知方法として、紙ベースのチラシで行うよりもホームページに掲載した方が良いのではないかと、紙の印刷等にかかる経費より、ホームページをきれいに見やすくする方にお金をかけた方が参加してもらうチャンスが増えるのではないかと、いったことを考えるべきかと思います。

もう一つは、先ほどのお答えの中に、自治会というものがございました。集団に声をかける時の単位の一つとして自治会というものがあると思いますが、自治会は、基本的に行政単位から離れているものと理解しております。そこに区長会というものがある、区長ルートというのは行政から入っているものだと思います。何を言いたいのかというと、区長イコール自治会ということに、現在はなっていると思います。大体は自治会の副会長クラスが区長を兼ねていると思いますが、自治会の中でこの「いきいき市民塾」事業が認知されているかということ、そうではないと思います。私の住んでいる絹の台の自治会広報には入っていませんでした。

自治会の中で自治会の課題を解決する方法について、自治会としてどうあるべきなのかといったことや、そこに住んでいる市民として、自分たちはどうあるべきなのかということ、そろそろ考

えていく時代になっているということ。そして、そのことについて、区長ルートを通して、区長に対して、知ってもらう活動に取り組んでもらえないかなと思います。

おそらく、自治会では、「よし、これからやろう」という柔軟な自治会もあれば、そうではない考えが凝り固まった自治会もあると思いますので、そのようなところでは協働ということ自体を、はじめてくる可能性もあると思います。

古くから住んでいる方や新しく住んでいる方が混ざっている自治会に住んでいる方々からすると、ある世代の方は新しいことをしたいけれども、そうでない方は余計な事はしないでほしいといったような考えもあると思いますが、そこに対して声をかけるということが大事なのではないかと思っています。

手段としては、自治会が行政からいきなり何かを言われるというスタイルはなじんでいないと思いますので、おそらく区長会のルートから入っていかないといけないかなと思います。自治会という枠の中で行ってもらうというのが、そこから裾野の広がるチャンスだと思いますので、ぜひ検討してもらいたいと思います。

●委員長

周知・啓発の方法を検討してください。チラシを置くだけではなく、できれば手渡しするなどの方法も考えてもいいのかなと思いますので、よろしく願いいたします。

●委員

みらい平のどんぐり公園で、あさのいちを毎月第1土曜日に開催していると思うのですが、これは協働事業とは関係ないのでしょうか。

●事務局

あさのいちにつきましては、4Hクラブという農業団体が主となって行っております。そこには行政も関わっており、つくばみらい市の農産物の提供と併せて、市民の皆様との交流ということで毎月1回開催されていることから、まさしく市民協働事業の一つとしてとらえられると思います。

他にも主管課として事業が漏れているところもあるかもしれませんので、そこは、行政内部として協働に関する認識を高めていきたいと思っています。

●委員

市民協働事業というのは、説明のとおり、従来から行政がこれらの団体とやってきたものをあげているということでした。それはそれとして、これから目指すのは、市民のみなさんが協力し合って、明るく楽しく安心して暮らせるために、地域コミュニティが重要になってくるのではないかと思います。そういったことで地域の中でできる協働として幅広く捉えて、新たな市民協働に向けてPRしていただきたいなと思います。

また、いきいき市民塾を受け入れてくれた団体をはじめ、多くの素晴らしい団体があると思うのですが、知らない方がたくさんいると思います。そういった素晴らしい団体があるのですから、まず知ることが大切ですので、行政の方もいろいろな形でPRしていただくことがスタートだと思います。そうして身近に感じ「話を聞いてみたい」「行ってみたい」という形でPRしてい

ただくと、また新たな市民協働につながっていくのではないかと思いますので、ご検討いただきたいと思います。

●委員

この、いきいき市民塾を通して、私たちの団体の活動を見に来ていただいた方がいらっしゃいました。このような機会を設けていただきありがとうございました。

●委員長

他に無いようですので、質疑を終わります。以上で、本委員会の議事は皆様のご協力の中、全て終了いたしました。これをもちまして、議長の任を解かせていただきます。

ご協力ありがとうございました。

●事務局

委員長ありがとうございました。

続きまして、議題の4のその他について事務局から説明させていただきます。

(3) その他

- ・委員より、市民協働事業全般に対する意見を聴取した。

●委員長

私がよく耳にすることとしては、「インターネットでホームページを見てください」、「QRコードで読みとってください」とうことですが、高齢者にとっては不可能です。そのため、何に参加したいかということ、最初にどういうものがある、どのように通達をするかという方法を考えていただいて人集めをすればいいのではないかと考えています。

もう一つは、交通弱者が多くいらっしゃいますので、そういった問題を解決していただければと思います。みなさん参加したい、家にいるよりはどこかに行きたいという方が多いと思いますので、ぜひその面を考えていただきたいと思います。

●委員

今の話と被るのですが、現在、市では不審者情報や行方不明者の捜索などについて、プッシュ型の通知により連絡が来ています。そのルートを活用して、発信することに大きな制限がないのであれば、情報提供をしてもよろしいですかという形で伺いをたてて、問題が無ければ、「イベントが来月あります」といった情報を発信するというだけでも受け手としては裾野が広がると思います。プッシュ型の情報発信に制限事項があまりないのであれば、利用者から許諾をもらって発信していただきたいなと思います。

また、交通弱者という話がありましたが、自分たちも団体の活動をしており、市のバスを一日お借りしたところ、普段10名程度の参加ですが、25名の方が参加しました。

コミュニティバスの使い方として、イベント等で交通を提供するという形の利用はできませんか。そうすると色々な方が参加できるのではないかと思います。

●事務局

プッシュ型の情報発信方法として、市では、防災アプリというものがございます。防災情報のほか、防災無線で放送した内容や市のイベント情報などがお手元に届くようになっております。市主催の催し以外のプッシュ型の情報発信については、今後検討してまいります。

交通弱者の面については、色々と検討が必要かと思えます。今後の課題とさせていただきたいと思えます。

●委員

つくばみらいアートフェスティバルというものがありますが、ご存じの方いらっしゃいますか。いらっしゃいませんよね。ネット上で動画を見ることができるのですが、見ない人は見ないと思います。それはなぜかといえば、物事の関心の度合いがどんどん個人に集約されてしまっているためであることから、物事を一つのくくりにして知らせる成功するということは無理だと思います。そのため、対象と考えている人たち向けに来てほしいであるとか、成功してほしいというものを、ある程度イメージして、それに対して小さい弾を何発も何発も打って行って、全体的に盛り上がっているようにするのが今のスタイルなのかなと思えます。

●事務局

みなさんからいただいたご意見を、担当課でもう一度振り返り、何かできることから進めていきたいと思っております。

4 閉会（午後3時30分）

●配布資料

- ・令和4年度第1回 つくばみらい市市民協働推進委員会 会議次第
- ・令和4年度第1回 つくばみらい市市民協働推進委員会 会議資料